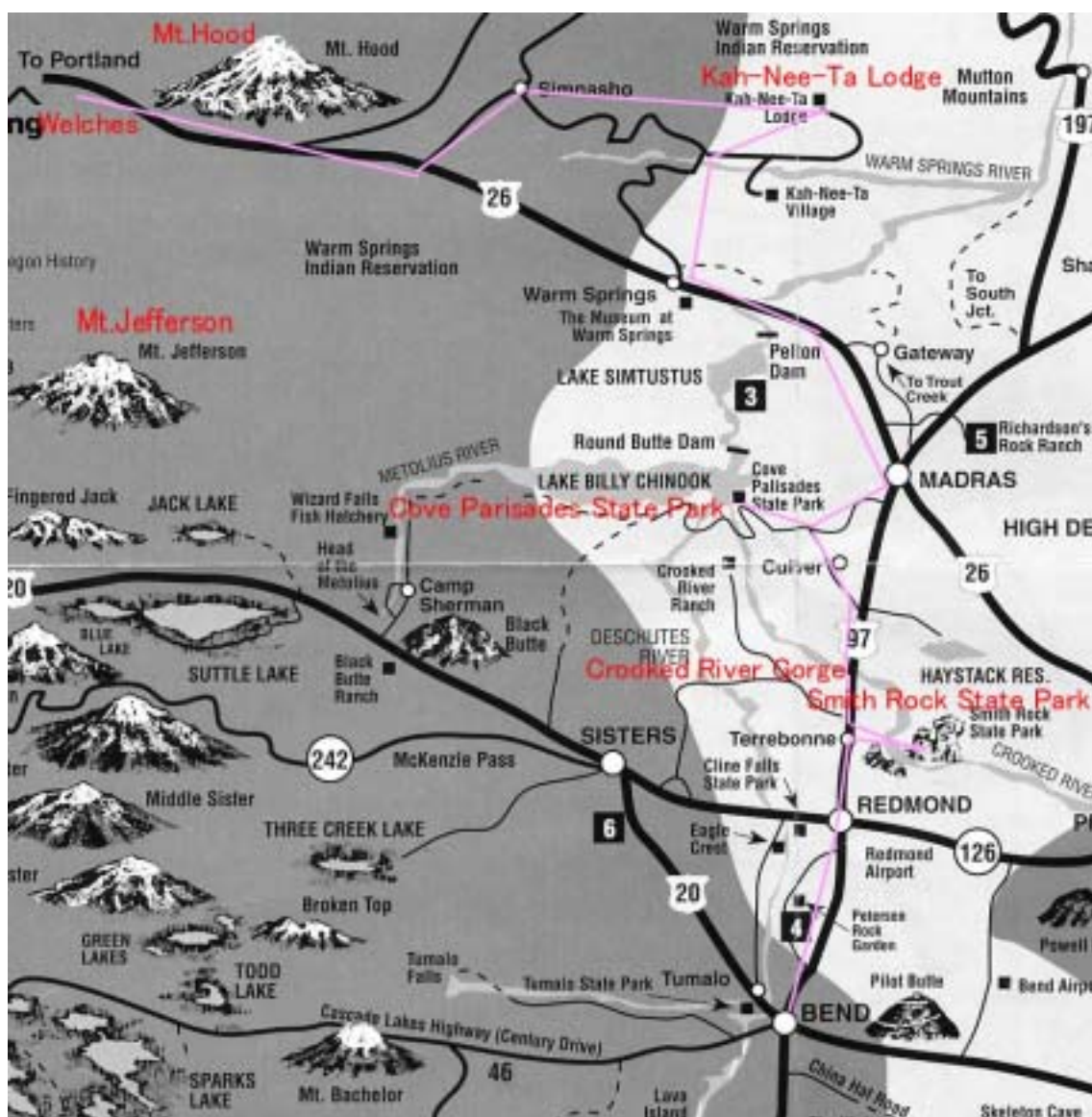


# 米国オレゴン州旅行(1998)

## —その13: ベンドからウエルチエスへ—

オレゴン旅行(13) - ベンドからウエルチエスへ  
7月14日(火) ベンドの Shilo Inn を朝出発。



ルート97を北上、すぐにルート20の分岐点を過ぎ左手に Mountain View Mall を見ながらベンドを離れる。最初の目的地は Smith Rock State Park である。Redmond を通過し Terrebonne を右折、牧場の中の田舎道を一路 Smith Rock へ。左前方に、岩肌が見えて来

たので、それを目標に進む。Smith Rock State Park の表示が現れ、ここからが公園に入るわけであるが、幾つも駐車場があり、どこが見所か判らないので、比較的多く車が駐車しているあたりに車を止め歩く事にした。この公園は Crooked River が中央を流れており、川は駐車場より遥か下方を流れ、対岸には米国一のロッククライミング場所と言われる絶壁がそびえ、実際 2 人ほどロッククライミングをしている人が岩に張り付いていた。高さがどのくらいかは判らないが、Yosemite の El Capitan は 1000 m 位の高低さのある一枚岩で、1993 年に行った時、2 人ほどがロッククライミングしているのを見たがこちらは El Capitan には及ばない様な気がした。ほとんどの人は駐車場から細い坂道を降り、ほぼ谷底の川に架かっている橋を渡り、更に対岸の小道を上り、別な角度からの眺めを楽しんだり、ピクニックをしたりしていた。われわれは体力の関係で、駐車場の周囲を散歩するだけにした。ぶらぶらしていると、父親と娘と思われる 2 人が写生をしていた。娘は油絵、父親は水彩画であった。父親の方は小さな写真をキャンバスの横に置きそれを見ながら画いているので不思議に思い、聞いてみると、今日は雲がないので、雲のあった時の写真を参考に画いていると言っていた。我々は日本から来たと言うと、その人は戦後日本に橋を架けるために駐留した事があり、日本人は本当に親切な人達ばかりだと誉めていた。



右の絶壁と正面の絶壁との間に Mt. Jefferson(3200m)が彼方に見えたが写真では写っていない。飛行機雲も何筋かあったが残念ながら写っていない。ルート 97 迄戻り、北上、ルート 97 が Crooked River と交差するところ付近は川の両側が絶壁になっており、そこにルート 97 の橋が架かっておりここも見所の一つであった。アムトラックの橋もありす

ばらしい眺めであった(下の写真)



更にルート97を北上、途中、Culver から左へ外れ Cove Palisades State Park (下の写真)へ立ち寄る。ここは Deschutes River と Crooked River が合流するところで対岸の絶壁が雄大であった。車で坂を下りきるとヨットハーバーになっていた。下流には Round Butte Dum があったが、そこにはよらず、ルート97へ戻り更に北上、Madras でルート97と分



かれルート26を進みインディアン居留地の中へ、Warm Springs という所に、インディアンの博物館があり、先住民の様な人達が働いていた。ここでルート26から離れ、Kah-Nee-Ta Village (右の写真)へ、砂漠の様な乾燥した丘の中の道を進む。数マイル行くと Eagle Butte という960m ほどの山があり、その山麓に小さな部落があったのが見えたが、恐らくインディアンの部落と思う。そこから Kah-Nee-Ta Village までは人の生活を示すものは牧場の柵が在る以外にも見当たらなかった。一つ丘を越えると遙か向こうに立派な建物が見えてきた。川を渡り、回り込むように進むとそこが Kah-Nee-Ta Village であった。Indian Head Casino があり、温泉プールとインディアンがかって住んでいた住居を模したキャビンの白いテント (tepee)があった。カジノのあるホテルで昼食のため駐車しようとする、びっくりするほどの数のイギリス製のスポーツカーが駐車していたので、流石、カジノには金持ちが沢山来ているのだなと思い、昼食のために並んでいたご婦



人に聞くと、アメリカ大陸北西部の **British Car** の所有者が年に一回集まり情報交換をする会が開かれており、夕方7時からこれらの車がゴルフ場に集合して、自慢話など情報交換をするのだそうである。北はカナダのブリティッシュコロンビアから南はサンディエゴまでの人達の集まりだそうだ。この会は毎年場所を変えて開催されるとの事。このご婦人は大阪でホームステイした事があると言っていた。そして、カフェテリアでの食事の注文の仕方まで親切に教えてくれた。このホテルは ” 歓迎ようこそ ” と日本語で入り口に書かれていたので、日本人の客が多いのではないかと思う。実際、カフェテリアと並んだレストランの方では日本人のような一団が食事をしていた。恐らくゴルフに来たのであろう。それともギャンブルか？ ここは日本から比較的近く、穴場なのかも知れない。入り口のドアは男の先住民が開けてくれ、子供を連れて先住民の母親の様な人が常にロビー付近を掃除しているのをみて申し訳ない思いがした。先住民の話は別の機会にしたいと思うが、カジノの設置がインディアンの待遇改善と交換条件になっていることを後でインターネットを通じて知り、今でも、インディアンが米国人の最低生活以下の生活しか出来ないことに、大きな疑問を持った。インディアンは伝統文化を守りたい、一方白人はインディアンの白人化を希望して対立しているようである。そう言えば、1983年 Arizona 州の Phenix の北の Scottsdale に行った時も砂漠の中のサボテンの生えたインディアン居留地に行ったが、あまりインディアンに関心がなく、西部劇の真似事を見て楽しんだが今から考えると学ぶ事があったのではと惜しい気がする。また、1990年に Olympic National Park へ行った時も、インディアン居留地に行ったが、廃虚のような家が連なり、子供が小さな窓から車に乗って通る我々を覗き見る様な光景があり、人一人外には居らず、不気味な経験をしたが、今から考えると納得の行く光景であった。先住民については今後もう少し考えてみたいと思う。Kah-Nee-Ta Village からは途中から別の道を通ってルート26へ戻りルート35を過ぎて、Mt. Hood の入り口の村 Government Camp を通過して急な下り坂(途中ブレーキ事故のための待避線あり)をかなり下ったところに Zigzag の村の次に Welches の町があり、左折してすぐ The Resort at the Mountain があった。インターネットでホテルを選んだ時は Mt. Hood の麓を選んだつもりであったが、10マイルも坂を下った所にあり頭で考える事との違いを実感した。